

令和3年9月3日
鳥山総合支所
危機管理部

オウム真理教問題対策（状況）について

1 現地の状況

信者の居住状況について、関係機関からの情報では、GSハイム鳥山（南鳥山6-30-19）に「ひかりの輪」信者5名程度が居住している模様である。

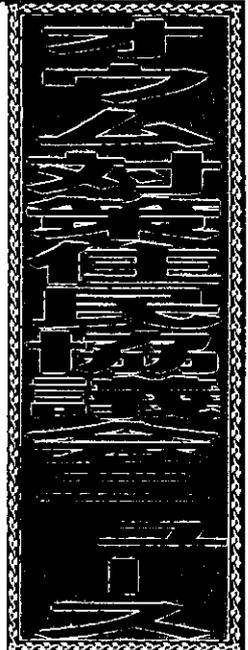
2 鳥山地域オウム真理教対策住民協議会の活動状況

(1) 抗議デモ・学習会

11月13日（土）に実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、中止することとした。

(2) 監視活動、広報活動等

コロナ禍ではあるが、町会・自治会や商店街などの地域住民による現地の監視活動を毎日継続しているほか、オウム真理教の事件を風化させないよう住民協議会ニュース第198号全区版を発行した。また、会長ほか数名の役員で構成される事務局会議は毎月開催し、住民協議会ニュースの編集やコロナ禍での活動方法の検討等を行っている。



烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

地域力の素晴らしさ

烏山地域オウム真理教対策住民協議会
事務局長 碓井 博子

新型コロナウイルスの影響により、私達の生活も色々と制限され、先の見えない不安な生活を送る日々が続いています。住民協議会の活動も、その不安や恐怖との闘いから始まりました。それは、地下鉄サリン事件から5年が過ぎた2000年12月に、GSハイム烏山にオウム真理教の信者が集団で転居してきた時の事です。

施設となったマンションには、一般の住民の方々が普通に生活をしていました。しかし、その生活が一変してしまつたのです。一刻の猶予も許されない状況に、行政と共に地域を守るといふ強い信念のもと地域住民が立ち上がり、翌年1月には住民協議会が発足されました。

地域の子どもの健全育成活動に携わっていた私は、ランドセルを背負い、そして学校へ通う子ども達の姿を見て、絶対巻き込んではいけない、守らなければいけないという強い思いで、私もこの烏山に生まれ育ち、大好きな故郷が不

安や恐怖に脅かされる事がどうしても許せなかったのです。その思いは、今も変わることはありません。

21年も続くこの活動中にも色々な事もありましたが、ここまで続けられたのは、行政の後盾と共に、地域の皆様のご支援、ご協力によるものと深く感謝しております。

昨年、コロナ禍による活動の自粛で、抗議デモ・学習会、そして募金活動も出来なくなり、協議会ニュースの発行も毎月とはいかず年4回となりました。

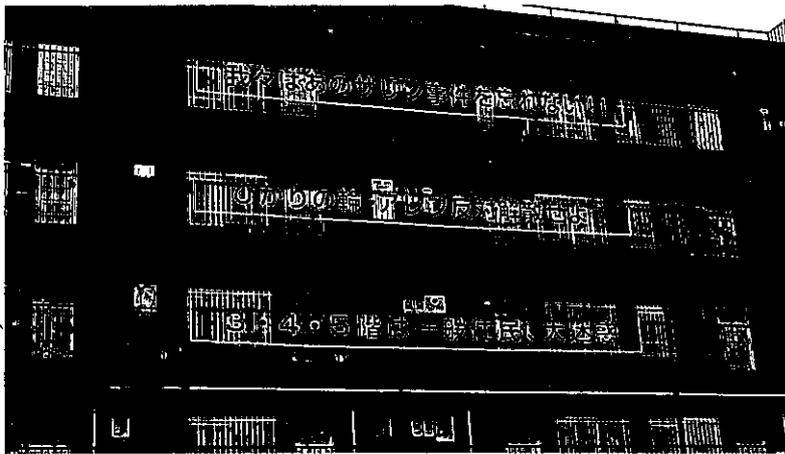
しかし、このようなコロナ禍でも、感染症対策に十分配慮して、監視活動は継続してきました。「コロナ禍なのにやるのですか?」という声もありましたが、無理のない範囲でのご協力をお願いしてまいりました。

いつも監視の目がある、地域を見守っている人々がいるという事は、ひかりの輪にとっても、この地域での布教活動が難しくなり、居心地の悪い環境をつくり出しているのだと思っております。

監視活動は、烏山地域の町会・自治会を中心に商店街、各小・中学校のPTAや様々な団体の方々にご協力をいただいております。成城警察署、公安調査庁に守られながら、暑い時も寒い

時も一年中、ご協力くださった皆様の方にいつも励まされ、私達の活動の大きな原動力になっています。また、オウム真理教が引き起こした様々な事件を風化させないようにする事も、私達の大きな役目だと思っております。オウム真理教は、現在、アレフ、ひかりの輪、山田らの集団に名前を変えてはおりますが、いまだに麻原に帰依し、危険な団体であります。

札幌市白石区に日本で最大規模のア



GSハイム烏山

レフの施設が出来たとの情報を受け、2017年7月に足立区の住民協議会、地下鉄サリン事件被害者の会代表の高橋シズエさん、そして中村裕一弁護士と共に視察と情報交換をしてみました。

札幌・白石区のアレフ施設の前では、親子連れの自転車がいっぱい、普通に出入りしている姿を見ても、誰ひとりとして気になる様子は見られませんでした。気付いた時には手遅れになってしまつた。とても恐怖を感じました。監視の目を逃れ、アレフにとつて布教活動がしやすい場所として、この土地を選んだのでしょうか。

その後は札幌市でも、住民協議会を立ち上げ、行政と共に活動を続けています。地域を見守りアレフの解散を目標とする住民協議会の活動は、布教活動を阻止できる大きな役割を果たしていると感じています。地域を監視する目があること、地域を見守る活動があることは、とても大切な事なのです。

コロナ禍で、私達の活動も制限されていますが、オウム真理教(アレフ・ひかりの輪・山田らの集団)の解散・解体を目指し、全国の自治体や住民協議会と連携し、情報を共有しながら今後も活動を続けてまいります。

この地域に、ひかりの輪の施設がある限り、私達の活動を緩めるわけにはまいたりません。これからも安全で安心な生活を取り戻せますように、皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

全国連携で抜本的な解決を！

オウム真理教（アレフ・ひかりの輪・山田らの集団）は、全国15都道府県下に31か所の拠点施設を構えています（令和3年2月末現在）。

主にこれらの拠点施設を抱える自治体により組織されたのが「オウム真理教対策関係市区町連絡会」で、世田谷区も平成13年1月に加盟しました。この連絡会には、札幌市や金沢市、足立区など、25市区町が加盟しており、地域住民の平穏な生活環境

を守るために、オウム真理教の解散を目指して、関係市区町で連携して情報収集および情報共有を行っています。また、毎年法務省を訪れ、法務大臣、公安調査庁長官と面会し、活動停止・解散などオウム真理教問題の抜本的な解決に向けた法整備を求める要請書を提出する要請活動も行っています。

例年6月に開催される連絡会総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「書面開催」となりました。令和3年度の

活動方針として、オウム真理教に対して、①活動を認めない、②利益や施設を与えない、③解散させる法律の制定を要請していく、④オウム関連施設が存在する未加入の自治体への参加協力を要請していく、ことが掲げられています。

区としては、今後も連絡会や住民協議会などの関係機関と緊密に連携を図りながら、オウム真理教問題の抜本的な解決に向け取り組んでまいります。（世田谷区危機管理部）

記憶を風化させない！

3年前の2018年7月6日、宗教団体オウム真理教の元代表で教祖の麻原彰晃こと松本智津夫を含む当時教団幹部だった元死刑囚に刑が執行されました。地下鉄サリン事件から23年余り、死刑判決が確定したのは2006年のことでした。多くの人たちは、この事件を過去のものとしているか、数々の事件そのものを知らないという現状があります。

事件当時中学2年生だった方はもう40歳になっています。当時、世間が震撼したこと、とてつもない恐怖に日本全国が陥ったことは忘れられているのではないのでしょうか？ 実際には30歳以下の方は知らないといっても過言ではないでしょう。オウム真理教対策住民協議会は、そういった記憶を風化させないように活動をしています。

地下鉄サリン事件現場の一つ、霞ヶ関駅には慰霊碑があります。そこにはこう記されています。

平成七年三月二十日 午前八時すぎ地下鉄サリン事件が発生した
九ノ内線 日比谷線 千代田線の都心に向かう五本の電線に持ち込まれた有毒ガスは十一人の犠牲者と六千人に及ぶ被害者を出す惨事を引き起こした
ここ 千代田線霞ヶ関駅では 五番線に到着した我孫子発 代々木上原行最前部車両の床にある臭いを放つ液体を処理した職員二人が死亡した
的確な判断により 多くの乗客の命を守り殉職した高橋一正 菱沼恒夫両氏の安全輸送に懸けた功績をたたえ 我々営団職員の手記としてここに記す
平成八年三月 運輸本部署有志一同

地下鉄サリン事件は、首謀者たちへの刑の執行ですべて終わっているのでしょうか？ それは違います。今でも、猛毒サリンの後遺症や、PTSD（心的外傷後ストレス障害）に悩まれている方が数多くいらっしゃいます。

事件で被害にあわれ、かろうじて命はとりとめたものの脳に大きな障害が残り、話すことも立ち上がることもできずに25年が過ぎて、亡くなられた方もおられます。まだまだ苦しんでいる方がたくさんいる、そういった意味では現在も進行しているのではないのでしょうか。

2000年（平成11年）、千歳烏山駅近くのGSハイム烏山および周辺の建物にアレフが同居しました。その後、上祐率いる一派がアレフから分派し、ひかりの輪を立ち上げ、アレフは千歳烏山を撤収しますが、ひかりの輪は残り、現在に至っています。

この団体は、オウム真理教の修行体系の最も本質的な部分を継承しているとして観察処分が継続されています。今年1月に3年間の延長がさらに認められました。これは、アレフ、山田らの集団に対しても同じように延長されています。観察処分対象になると、公安調査庁に構成員などの報告が義務づけられ、団体施設に立ち入り検査をすることができることになっています。

公安調査庁の2019年の調べによると、信者はおよそ150人、資産は700万円となっています。活動はいくつか確認されており、仏教・ヨガ・心理学勉強会と称するものや、瞑想講座、宗教思想、上祐のセミナーなど8月だけでも7つも予定されています。参加料はいずれも3000円程度、そして、インターネットでの中継も行われていて、本部にいらなくても見聞することがで

公安調査庁 立入検査実施施設 (令和2年度)



きる模様です。信者だけでなく、一般にも広く参加を呼び掛けていて、こちらには十分な注意と警戒が必要になってきます。

ひかりの輪はさらに、東西の幸福の智慧、思想哲学の学習教室と自分たちを称しています。冒頭にも記したように、過去の事件などの記憶や知識がない若い世代たちが知らずに参加しているようなのです。

オウム真理教が起こしてきた数々の事件について、当時を知るもしくは当事者たる信者も少なくなってきたと想像されますが、思想は受け継がれているといっているのでしょうか。観察処分延長がそれを証明しています。

このところのコロナ禍で、街角での周知活動、デモ行進などが中止になっており、風化の速度が進んでいるのは事実です。

そうした中ではありますが、ひかりの輪の活動がある限り、住民協議会は、これからも毎日監視活動を続けてまいります。皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。